

極東公降軍事裁判所

一頁

Doc 6257

亞米利加合衆公其他對某木貿易其他  
一九三八年乃至一九四二年／昭和三年乃至昭和十六年／日本海軍  
戰備備案／海軍備品及陸軍備品報告  
亞米利加合衆公退後海軍大尉(一九三八年一月一日至一九四二年三月三十日)準備  
甘多兒陳述並二報告

一、一九四二年／昭和七年／六月三日，聯合總司令官，要  
請一九四二年／昭和七年／七月一日海軍大臣，  
裁判所出頭此處係爭中問題，海軍有保管  
書類，報告提示不外，特指參照。

二、職務遂行上亞米利加合衆公海軍關係事項，  
事實，調查記錄及報告於正規海軍，手續，  
士官製作保管乙式，海軍報告記錄及文  
書，參照。

本所述一九四一年／昭和十六年／十二月一日及其以後，  
猶之遂行之海軍作戰，日本海軍，計  
画及準備，問題，不記，記錄本裁判所  
公和調查，報告，問題下記，四項目，  
提出。

161

極素之際，何事不剖折

(1 ~~max~~)

Doc 6257

一九四六年／昭和二年／五月三十一日，聯會之總司之官，要請二處之一九四六年／昭和二年／六月二十一日海軍大臣：二，裁判所之出頭：此處之係爭中，問題二：海軍有保管書類二項：「報告」提示之內容，和「指揮」。

二、職務遂行上之亞米利加倉庫之海軍關係事項，  
事實、調查記錄及之報告於此正視，海軍、半體二家  
之官並製作保管之乙式，海軍報告、記錄及之文  
書，參照，七。

本隊遂行一九四一年昭和十六年十二月一日及其以後、  
同船之遂行之海空作戰、空襲、日本海空、計  
画及準備、問題、測定記、記錄、本裁判所、對  
外參、調查、報告等、問題下記、四項目、會  
提出人。

201

Doc 6259

(一) 海軍、建造特種航空母艦、建造、  
(二) 各地統治諸島於、海軍基地、建設、要塞、構築、  
三、計劃及準備

(三) 海軍攻擊、援助、軍事、  
(四) 會戰、討、日本、戰爭、於、敵討行爲、  
明確、理由、附、軍事、警告、依、日本、米國、  
通告、公、一九四一年、昭和六年、一月一日、布達  
真珠灣、於、會戰、海軍、軍人、及、艦船、日本、航行  
母艦、機動、隊、加入、敵、攻擊、  
三、計劃、及、準備

# 第三章 一 例

海軍艦船，建造特一航空母艦，建造二列計画及準備

三、航空母艦「信濃」及「信號」爲「海軍武器」最良之型（一）  
（三頁）  
三年（一九四三年）/昭和九年/日本海軍着艦者  
山本五十六海軍大將及三永郎修等海軍大將依記  
メモ。二革：彼等、船下記、記録三級「不外七十」。  
四、航空母艦「本鎮的」（彼等、前言）新嘉坡的「信號」海  
軍武器（一）（六）日本、海軍、一九三五年（昭和十年）/

Doc 6257

163

倫敦海軍會議開會，會議，日本海軍大將並永野  
海軍大將，並於九月十一日，商討之後，日本  
航空母艦攻擊，於此日本聯合艦隊司令長官上山本  
一九三四年（昭和九年）十月十九日，米田代表，會議於  
日本極東。於此會議，有心，如是念，更，  
心非人主張也。二、多張，軍械付山本：日本滿是  
不一樣條件，下三日本（軍械船）母艦，欣然，廣泛，  
上言然心，若修（日本側）=》（東亞侵略專圖）  
上說十八航空母艦，保持有利之，人，才，下，  
言明也！（多張，軍械付山本，一九三四年）  
不倫敦會議於日本首席代表，其商討之後日本海軍  
大臣上，其後，真珠灣，航空母艦攻擊，於此日本  
海軍司令長官，永野海軍大將，一九三六年（昭和十一年  
十月十日倫敦會議，公，會議於此，再，航空母  
艦，攻擊的海軍武器，主要，大型，日本，多張  
言明也。永野：「更，侵略及，朝鮮，不，艦，出來  
大，完全，稻木，為，我，一，航空母艦，真珠  
灣艦，他，級，多，減少，下，唱導，不」

ト述べタ。(本隊檢察部文書ナシニヨ一早)

0006257

六、永野ト山本ト、職務工、海軍系統卒並、個人的協力ハ、  
倫敦海軍會議、開スル後等ノ共同、努力ハ、辰ルノミテズ、又、  
永野ト山本ト、一九三六年ヨリ一九三七年、昭和十一年ニリ、  
間相當期間、亘リ、丈々海軍大臣及、海軍次官トシテ、  
相共ニ勤務シ、其後、一九四一年ヨリ一九四三年、昭和十五年ヨリ、  
昭和十六年、三支々軍令部長及、聯合艦隊司令長官ト、  
ミ、眞珠湾攻撃、計画、立案並、発令ニ當ラニ指導的他  
位ニ在リ、事實ニ依、明カリ。

七、猶記録、辰久、永野ト山本及其同僚ハ、航空母艦、建造  
及、使用、日本海軍改策ノ、主要原則ト在リ。

本政策、實施ハ、段階ヨリ成レリ。第一、現存、航空母艦  
、建造ニ關スル量的及、質的制限ニ、周スル條約、廢止並  
、海岸建設、税収、島々條約上、障碍、撤廢、（六月）二二日  
本が合衆国ニ討シ、航空母艦、優勢得ル、遂、航空母艦及  
、其、掩護艦艇、建造スル事、又ニ、眞珠湾、碇泊  
又、繫留、合衆国太平洋艦隊、人員及、艦艇、同、戰  
前、秘密ニ奇襲攻撃スル事、航空母艦機動部隊ヲ

104

1/65

Doc 6257

使用文書。

八、中一段階即航空母艦建造問題、現行條約、制限、廢止、倫敦邊會議問題、會議、日本海軍代表下出席セ、小本及永野、海軍統率下、遂行セ、  
シ。一九三三年/六/三十日、華府條約改訂、日本  
日本制限、航空母艦噸數分一千噸セ、  
日本代表、海軍、建造問題、現行條約、制限、撤除、  
要求セ。日本側、現行改訂即比例制限、代、彼等  
所謂「共通最高限度」、基シ、條約制限要求セ。  
他、諸國、本提案、採用、何等、有利化制限、保持シ、  
審議如何化制限、及廢止、結果、至九月、上思考セ。  
他、諸君、皆日本側、要求同意セ、日本側、一九三四年  
昭和九年/十二月三日=一九三六年/昭和二年/二月三日  
有効化條約上規定、該條約廢棄不意御  
了道言セ、一九三六年/昭和二年/一月十六日、永野海軍大將  
統率、下、日本側、會議、脫退、他、諸君、一諸、  
海軍建設、制限、新條約、作製拒シ。

Doc. 6257

九、一九一九年、ワシントン條約及一九三〇年、ロンドン條約規定  
基準日本、合衆国及英國の海軍建造二年之内に於て報告書を提出  
居し、日本が右條約終結二年以内に右條約規定分量東洋  
一九三一年三月二日時日本ハーバード大学外務大臣及ハーバード  
大使向ニ文書を呈し、今日ハ諸國通牒ニ於て海軍建造二年  
の相互情報文牒スベニトノ米英及佛提言ヲ拒絶セ  
然ニ日本ハ後述スル領事密偵、他方法ニ依リ合衆国三十二  
海軍建造二年之内舊大情報獲得ニ得ケタリ。

一〇、是海軍政策ノ一部段階トニテ一九三六年ヨリ一九四一年ニ間日本  
海軍及政府ハ航空母艦建造ノ計画を実行シ、一九三六年ニ  
日本ハ航空母艦四隻ハ八四〇噸有之居リ、然ニ一九四一年十二月  
首即キ、右僅カ五隻ニハ日本ハ航空母艦、輸カ力ヲ三倍以上  
増加シ空母十隻ハ八七〇噸有之居リ。

一一、日本ハ航空母艦建造、擴張ニ加ニ一九三一年ヨリ一九四一年ニ至ル  
内重巡洋艦ヲ一隻ハ倍又ヨリ一九一一年十隻ニ駆逐艦ヲ九十二  
隻ヨリ百三隻又ニハ潜水艦ヲ四隻ヨリ七十四隻ニ大増加セリ、  
同一期内米ハ西洋ニ於て海軍、軍艦、擴大ニ直面シ重巡洋艦  
一隻ヲ十隻カ、日本上同然、十八隻ニシタルが如駆逐艦ハ  
三百三十隻又ヨリ重巡対三倍ニ縮リ、又潜水艦ハ全隻ヨリ百十三隻ニ縮  
セリ、航空母艦ヲ比較セバ一九三四年及一九三六年日本提督及水野  
海軍大臣が夫々之ヲ用セシ如ク合衆議院ニテ聲附セル時、日本  
及合衆国海軍合計四隻、航空母艦ヲ有之居リ  
五五二年十二月七日ハ日本ハ十隻、航空母艦ヲ有シテハ僅カ八  
隻又ヲ有セシ、而モハ太洋洋岸アリル僅カ三隻ナリ。

Doc 6257

十二、航空母艦、対空及使用開戦に日本海軍改進遂行、力三二、  
最終一段階八真珠湾攻撃手三於二、海軍方隊トニ、空母不動  
記録、日本ニヨリ使用トキ、日本軍が真珠湾ニ对于派軍セル  
大隻、航空母艦八加賀、赤城、蒼龍、龍驤、翔鶴及瑞鶴、ニテ  
日本海軍中最強、空母十キ、之手日本海軍、空母兵力六ト  
ノ於、二、割合カタカタメ三百六十様、空母等メカヒが石、於テ、日本  
海軍全艦載隊兵力七、割合カタカタメ相手、ハタニ、當時ハワイ水域。  
在、ニ三隻、空母即ち未就軍艦、カタカタエーテー、ノイズ、が真珠湾  
ニ碇泊セキテ、合衆国海軍が集合、得タル艦載隊、最大級、  
空母百八十様、ヨガヤベノ旗、言セハ、一九三六年ヨリ一九四五年、エ、日本  
海軍、空母連合日本、ニテ被攻撃手海軍部隊、比、五個、  
侵襲力九艦載隊兵力、伴、本、艦、十キ最強力、一、艦、力、之、隊、  
諸艦、真珠湾、合衆国海軍將軍、五艦、船、攻撃手、事、之、傳  
タ、更、三、右攻撃手、於、日本海軍、主、自、目標及目的、真珠湾  
ノ基地、ノ米、海軍、三隻、航空母艦、艦、次、ソ、太平洋、於、  
日本空母、既得、侵攻、力、相手、ト、六、十、

十三、要、五、一、年、ヨリ、一、四、年、三、月、海軍、軍事、開、ニ、日本、計  
画及、準備、日本海軍、自、取、權、威、有、タ、ル、水、野、山、本、ヨリ、航空  
母、艦、傳、給、的、海、戰、行、身、建造、ハ、海、軍、艦、船、ノ、タ、ク、エ、テ、十、  
明、示、的、認、識、入、日本、空、母、及、艦、海、軍、事、務、建、造、ノ、理、行、條、約、一、制  
限、艦、軍、事、事、實、ニ、ヨ、特、別、ノ、制、約、ノ、日本、海、軍、計、画、及、準備、更、  
日本、一、九、四、年、遂、合、衆、國、公、使、列、三、計、航空母、艦、於、決、定、的、侵、攻、  
當、ニ、三、公、使、合、衆、國、公、使、列、三、計、航空母、艦、於、決、定、的、侵、攻、  
ノ、自、指、大、海、軍、軍、事、負、東、ノ、日本、一、九、四、年、十、月、六、日、空、母、機、動、部、隊、ノ、以  
テ、戰、事、事、實、ノ、如、セ、ハ、大、洋、於、ニ、合、衆、國、軍、事、勢、力、、海、軍、セ、ハ、上、  
前、画、一、下、三、大、加、一、三、且、相、合、大、艦、手、行、シ、。

委任統治諸島於公海軍基地，設定及要塞構築，關之計畫並準備。

Doc 6257

茲提出之文化書證、委任統治諸島、對日本海軍政策、日本海軍、航空母艦、對政策、關係上同樣目的、即、專委任統治諸島、海軍擴張及侵略、為開發、且利用、其特色附于上文、以下示之。

一五、之向様ニ右政策實行及航空母艦開拓政策實行附載ラル  
上同一活動線ニ沿ニ爲サタリ即ニ一條約上諸制限終止符ヲ打ナリ之  
本件場合直接條約侵犯トシ宣該諸島要塞及海軍基地ヲ築造  
セラリ右諸島要塞及基地ニ一九〇四年/昭和十六年/十月七日又シ以降  
合衆國从向盟國對本海軍戰闘行為開始並遂行爲使用。

一六、條約及委任統治制限(一)「ニシナニ」條約(一九二〇年)右條約基日一千九百二十一年  
本ニ與ラル統治委任(合衆國と日本)間委任統治條約(一九三三年)  
依ニ確立セラル事ナリニ等制限六次如<sup>ノ</sup>述ヘラフ。  
當該委任統治諸島領域ハ唯海軍基地ヲ設定シ若ハ野塞  
精築スベラスト

(次頁 = 續)

No. 8

10. 9

Doc. 6257

一七、日本海軍及政府が委任統治諸島海軍基地設定シル事実、  
平文書文書多ナル、簡潔、期シスンが適切ナルモノナリ、里中ヨリ  
シテ、一中ノ、提出ス。該文書、即ち日本海軍聯合艦隊  
命令ノ一、第一号、國際檢察部文書ナリ。

一八、聯合艦隊司令長官山本大將本命令十九四年（昭和十六年）  
十一月五日旗艦長内ヨリ發セリ。（國際檢察部文書七号ノ貯）  
右、對米英蘭戰爭於ケ聯合艦隊、作戰別冊存リ之。  
實施スナル命令ナリ。

一九、別冊本文表及圖表共百五十一頁、  
（三七、二六頁）三船元戰爭、作戰大綱ヲ掲ゲ、戰爭準備、  
通信、補給、兵力配置、他、諸事項規定シアリ。  
委任統治諸島がコ命令、各所ニ見。二六頁於該  
命令補給基地、割当確定シアリ、南洋部隊及先遣部  
隊、割當ラシタル補給基地次、委任統治諸島ナリ  
、サイパン、エゼル、オジエナ、タロア、トラック、本ペ  
及、パラオ、コモ等、ノルマス、割當ラシタル全海軍補給  
基地、半數以上ヲ占メアリ。即チ補給基地總數、十五ナリ  
、二六、乃至二七、貞八附表オニシテ、補給基地對外最  
初燃料供給量、獨り前記、委任統治諸島中五島  
、對外汽鑑油、供給量、總計四万六千五百米噸噸ナリ。  
同様、右委任統治領基地、對シ多量、航空油、爆弾、機  
関銃、彈藥、魚雷及敷設水雷が割當シアリ。八、委任統  
治領基地、對之、一月行キ三万六千人分、糧食、食料割  
當ラシアリ。九月、至二、三、四、莫大ナル毎月、補充供  
給數量が奉サシアリ、南洋地域、對外、航空機資材、  
補充、トラック島、於テ行シ、海軍艦資材、補

一、先づ之セリ「島嶼ヲ爲サルコトセラシア」

二、命令オ一男ガつし等委任統治領、施設ニ就キ基地ト言フ事  
葉ヲ用ヒアハ疑ヒモアフ正確ナリ。之ニ閣聯スハ資材、ノ、敷設  
及機械、狀況、シ等海軍基地及右基地於ケル貯藏、輸送、  
通信及統包彈藥等、爲施設大規模且長期向直、  
建設セラシタルモナルコト示シアリ。ノ、美ニ就キテ他書類  
提出且検討ヲ蒙ク得ル如クナシアリ。

三、委任統治諸島之命令オ一男於テ兵力、配置ヲ示ス表中ニ  
モ墨、(三〇四、一〇五、一〇六頁)オハ艦隊、普通委任統治領艦  
隊ト呼バシ中、トスル南洋部隊シ、艦隊集合地トシ  
テ南洋即ク委任統治諸島ヲ宮当テラシアリ。右部隊、  
コシ等、基地ヨリ活動ヲ起シ、眞珠湾攻撃部隊ヲ掩  
護シテ之ヲ助ケ能フ限、迅速ニ、エイ、及ガム、攻撃  
シ且該攻撃部隊ト要地攻撃ヤガタ協力スベフ命  
セラシアリ。更ニ委任統治領ニ基地ヲ有スモノニ通商破  
壊部隊アリ之ハ明ニ右命令ニヨリ海上交通破壊部隊  
擔當セラシタルハ潛水艦部隊ナリ。オハ艦隊及、他  
諸艦隊ニ屬セ日本、潛水艦、常ニ委任統治領、諸  
基地利用セリ。日本ヨリ、眞珠湾、ハ、途次潛水艦、  
島ニ待機シタルナリ。

四、右如クニテ、日本海軍ガ一九四一年、昭和十六年十二  
月七日以前、於テ委任統治諸島ニ於ケル海軍基地  
ヲ既ニ建設シアリタルコト明瞭ナリ

五、之ト同様、日本海軍及政府が委任統治諸島ニ要  
塞構築セコトヲ示ス數多、文書有アリ。簡潔ヲ  
期ス、爲メ三種、文書ヨリ成一連、證據、三ヲ提

六六、之等文書、中二冊（國際檢察部六二五四号-A及  
六二五四号-B）、一九四三年（昭和十七年）八月即戰爭  
開始後（月）より、九時合衆國海軍寫眞情報部  
隊（ヨリ撮影）シタル、ウジジエ、島、空中偵察寫眞  
リオ、之等文書（國際檢察部文書六二五四号-1）、  
一九四〇年（昭和十五年）八月十日、自附、アヒウジエ、  
島（日本）写眞地圖（一）、一九四四年（昭和十九年）  
アリカ軍（アゼリ）島上陸戦、空襲（ハモナ）。  
之等、寫眞調査（アヒトウジエ）、一九四二年（昭和十七年）  
昭和七年（昭和二十二年）八月三十日ヨリ前、要塞化（アヒトウジエ）  
アルト共、海軍、基地（モスネル）裝備（アヒトウジエ）  
ハコトガ分ル。青写眞地圖（一）、一九四〇年（昭和五年）八月  
ヨリ前、日本、海軍（アヒトウジエ）政府、既（アヒトウジエ）要塞化（アヒトウジエ）  
トガ分ル。ウラジエニ於ケル日本軍、施設（アヒトウジエ）各文書（アヒトウジエ）添  
付、アヒトウジエ各項目（アヒトウジエ）对照、表（アヒトウジエ）示サシテ居ル。

一六、寫眞（アヒトウジエ）島北端、（國際檢察部文書六  
二五四号-A）アヒトウジエ、島中央、雁竹場、交叉（アヒトウジエ）鋪装滑走路  
一本（アヒトウジエ）コトガ分ル、其（アヒトウジエ）滑走路、各三百呎幅アリ、（アヒトウジエ）  
メ、長サ（アヒトウジエ）五七。呎、今（アヒトウジエ）三九。呎、長サアリ、小型飛  
行機（アヒトウジエ）勿論、陸地、基地（アヒトウジエ）大型爆撃機用（アヒトウジエ）適  
先。二個又（アヒトウジエ）三個、大格納庫、二個、大キナ工場、風（アヒトウジエ）建物  
ガ滑走路、西（アヒトウジエ）見エア居ル。之等格納庫、北（アヒトウジエ）大キナ工場（アヒトウジエ）  
飛行機（アヒトウジエ）斜道ガアリ、其處（アヒトウジエ）幅一五。呎、長サ三。呎、往  
奥（アヒトウジエ）、最大、水上飛行機（アヒトウジエ）適（アヒトウジエ）大格納庫ガアル。

一七、多（アヒトウジエ）備砲、位置（アヒトウジエ）見（アヒトウジエ）其中（アヒトウジエ）北側（アヒトウジエ）南側（アヒトウジエ）  
門（アヒトウジエ）裝置（アヒトウジエ）対空（アヒトウジエ）海岸（アヒトウジエ）防衛（アヒトウジエ）、兩（アヒトウジエ）目的（アヒトウジエ）持（アヒトウジエ）砲壘（アヒトウジエ）ガアリ。

其ノ名ハ直ブ傍ニ、動力庫、軍需品庫、司令塔及兵舍地  
域ヲ持ツテ居ル。砲八分五吋若クヘテ対砲デアラウ寫眞ト地圖  
（中ニ瀕邊ニ沿ウテ多數ノ框舍ガ見ラシル。）

二八、重油貯藏、タンクト彈藥貯藏用建物ト日本製地圖  
(中ニ文字ニヨリテオレテ居ル。而シテ又寫眞デハ濃タタク黒  
烟ヨリ米國海軍飛行隊が目標トミク其等ノタニウ)及彈  
藥庫、位置ヲ示シテ居ル。

二九、塹壕、鉄筋コンクリート掩蔽砲床機関銃座、鐵條網、  
道路、連絡橋式及總數五十以上、建物モ亦寫眞ト地圖上  
デ看取スルコトガ出来ル。

三〇、寫眞C-1-2(國際檢察部文書ニ三四四号、B) (十九頁)  
キ、二階建、無電送信所、建物が見ラレ其ノ横ニニツ  
無電塔ガアリ其ノ他、建物ヤ、タンク、モアル。

三一、一九四〇年、昭和十五年、八月十日附、此、日本製地圖  
及一九四一年、昭和十七年、八月三十一日作成、之等ノ空  
中寫眞ニテサレタル、ウラツヂエニ於ケル施設、總テノ量カラ  
見ルト日本海軍ト政府トハソクモ一九四〇年、昭和十五年、  
ノ半バ前カラ恐ラクハ一九四〇年、昭和十五年、ト一九四一年  
、昭和十六年、トノ全期間、通ジ基地、設置及要塞構  
築、從事シテ居タコトハ明ガデアル。此ノ東ニ南スル証據、  
追加トシテ本件、他ノ部門、於テ日本人、爲メニウラツヂエニ  
於テ建設工事ニ働イタ該島嶼、住民カラ申立、形式デ  
後日提出来ル由ニ聞イテ居ル。

(機密)

三二、日本海軍ニ依リ作成セラシタル文書即チ、聯合艦隊  
命令、作ガ一号及、ウラツヂエニ、地圖ハ日本、海軍及  
政府ガ一九四一年、昭和十六年、十二月七日以前ニ海軍

基地ヲ設置シ且要塞ニ構築シラトヲ明ニ不ニテ居ルモノ更ニシル。

中二項

(二十一)

三三、海軍攻撃等援助三、領事館同謀行動三、不計画及準備  
 ダク、文書記録上、日本海軍及政府殊外務省が  
 一九三二年/昭和六年/から一九四一年/昭和十六年/向米  
 國海軍及政府ヨリ海軍、施設及活動三國之監視、踏査及  
 向謀政策ヲ取リ居リ凡トヨリ不ニテ居ル。

三四、米國海軍、真珠湾攻撃事件査向会ノ見事実中、  
 日本向謀制度全世界ニ亘ル其民向人領事及外交官タニ國  
 民利用ニテ米國海軍建艦計畫及米國海軍艦船、  
 位置及行動等行日本情報得セリテ居リ上述ベテ居ル。

三五、日本海軍及政府殊外務省、指揮、下三處且連續的、尚  
 謀が木化、於テ領事館アガア、ダーテ、喜多永男、及全島  
 三敵在ル百人領事館員ヨリ行ヒタ。 (二十一)

三六、本向謀、性格及範囲殊真珠湾攻撃、大貢献ヲ有シ  
 ノトヨリ文書ノ天今迄三提出不、之等文書ハ本心ハ、日本領  
 事館ト東京、日本海軍及外務省、向ニ交換サシタル通信  
 中數個モ、確證アル寫テアリ其通信私設電信会  
 社、テヨリ暗号モナモナテア。

一、國際検察部文書ナ六二五五号、A、C、D、E、F、G、H及I  
 二、之等通信、中テ真珠湾内場所十地域ヲ指示シテ居ル事  
 ヨリ了解シテ其ノ為ニ真珠湾、海図ヲ用意シタリテ、  
 ヨリ天今提出ス。 (二)、(國際検察部文書)

中六二五八号)

10.14

6257

三八最初、電報(國際檢察部)文書番号三五一A号

日本文電報番号三号一八東京ヨリ、モニシテ其、中二  
外務大臣豊田海軍大將、氏名記載シアルヲ以テ  
外務省ヨリ發セテシタルモ十九コト明カナリ。次、如シ。  
東京(豊田)ヨリ

木ノルヘ

一九四一年/昭和十六年/九月二十四日

八三番 極秘

以後船舶二例シ出来シテ次、範圍ニ沿フテ御報告  
ア望ム

1. 水域(眞珠灣内)ハ大体五ツ、水域ニ已切乙ル  
コトハ省略ハ全然差支ヘナシ)

水域Aアオード島ト工廠向、水域。

水域Bアオード島南部及シ西部、島ニ近接セル

水域C、水域D、水域Eヨリ島側ニ向ツテ反対

ニ在

水域C 東入江

水域D 中央入江

水域E 西入江及之ニ通ベル水路。

2. 戰艦及航空母艦ニ拘シテハ碇泊申モノ之等ハ  
左程重要ナラホシモノ、埠頭、浮標及船渠ニ繫留  
申モニ付報告サレタシ、簡潔ニ型及等級ヲ  
指示スルコト、出不得レバニ隻又ハ其以上、艦  
船が同一埠頭ニ碇泊シアル場合ハ之ヲ指摘サタシ  
陸軍 = 三二六〇号

翻訳 一九四一年/昭和十六年/九月

5  
L

110.15

6257

三九次、電文(國際檢察部文書才六二五五一)号

日本電文第二二号一八東京發、モニシテ、東洋  
外務大臣、氏名アルフ以テ之セホ外務省ヨリ電  
文大コト明瞭ナリ。電文次、如シ。

東京(東洋)ヨリ

木ノルシヘ領事記

一九四一年(昭和十六年)十一月十五日

第二二号

日米關係ハ最モ危機ニ瀕シテ居ルタゞ貴方、在港  
中、船舶ヲシテ一週ニ二度、割合ニテ不規則的ニ  
報告セシメラレタシ。勿論貴方ニ於テ既ニ気付  
カレシ事トハ思フが秘密ヲ保持スルニ特別、注意  
ヲ拂ハレタシ。

ヨロイ、六九九一 一五六四

一九四一年(昭和十六年)三月十二日

四〇、海軍備訊一一三一四一(5)

四〇次、電文(國際檢察部文書才六二五五一)号(西頁)

日本電文第二二号、日本總領事が真珠灣  
攻撃ニ先立ツ一月足ラズ前、東京ニ向テ登信  
シアリタル通報、形式ヲ示ス。次、如シ。

木ノルシ(喜多)登

東京宛

一九四一年(昭和十六年)十一月十八日

第二二二号

一、吉日灣内ニ投錨中、軍艦ハ當日附余、二九号  
ニテ報告、通リ

NO. 16

6257

A 水域 | オノノ級駆逐艦 1隻  
C 水域 | 重巡級三隻 技舗中  
= 十七日 サラトガ入港内=ト。航空母艦 エンタープライズ  
及びスバ真他、艦船 1隻 C 水域 = アリゾカ級  
重巡 2隻 ベンガラ級 1隻 KS ドック 1駆逐艦  
商船 四隻 D 水域 = 技舗中。  
三、十七日朝午前十時驅逐艦八隻 湾内入港シテ  
カル目撃セラタ。ヨリ進路次、  
千米向隅一列時速三ノットテ真珠湾入りタリ。  
同港入口ヨリ B 水域 経 C 水域 湾内=駆逐艦セラ  
レタリ。同艦各回大凡三度、五回進路ノ換合。  
経過時間一時間、併シ是等駆逐艦、ウチ一隻ハ  
東側、貯水池ヲ経 A 水域=入リタリ。  
| 轉電セラ。|  
陸軍二五八七 一九四一年昭和十六年六月二日  
翻訳(2)  
四、一次、電文(國際檢察部文書第6255-E号)(三五五)  
日本電文第13号ハ真珠湾攻撃=スル重要九  
三個、予備問題ヲ提起スモナリ、此電文モ前同  
様、東郷外相氏名記載シアリ。  
之ヲ以テ日本外務省ト日本海軍ト、即=密接に  
連絡アリシコトヲ示ス。次、如ニ。  
軍事施設艦船動向其他=閣スル日本、通報(=裏)  
東京(東郷ヨリ)  
木ノ、宛一九四一年昭和十六年十一月二日(一九四一年  
昭和十六年十二月三十日陸軍ヨリ翻訳)

J-1-19

第一二三号（省外機密）

現状ニ鑑ミ戰艦航空母艦巡洋艦、港内碇泊ハ極メテ  
重要ナルコトナリ。爾今貴下ハ最善ヲ畫シテ逐一余  
ニ知ラシメヨヒ眞珠湾上空ニ觀測用氣球ノアリヤナシヤ若  
シクハ該氣球、上昇セラルベキ徵候ヲ示ス。何等カノ  
動向アリヤ否ヤ二々、場合ニツキ余ニ電信セヨ  
亦上記戰艦ハ對機電網ヲ草一備シアリヤ否アラ  
報知セヨ

（キユーン自白書ヲ提出）

（三十六頁）

四、前述日本電文、第一二三号、登セラレタルト同日即チ  
一九四一年、昭和十六年、十二月二日ニ、ハーナード、  
シニリヤス、オット、キユーンシハ、彼が證憑トシテ、提  
出シタル自白書（國際檢察部文書番号第6256  
IA及ビB）ニ據シバ、喜多總領事及び其ノ部下  
ニ対シコノル、シノ總領事館ニ於テ總領事、要求  
シタル情報ト文書トヲ手交シタリ。彼、自供スル  
處ニヨレバ、キユーンシハ明カニ一万弾ヲ下、タル相当ル  
金額ヲ支拂ハレタリ。ソレハ日本總領事ニ対シ、從ツテ  
又日本海軍、東京ノ外務省ニ対シカ、ル情報ヲ提  
供シタルニヨリテナリ。キユーンシハ、手交シタル情報  
及ビ文書ニハ在港中ノ米國艦艇ニ關シ、港内ニ於  
ケル碇泊場所ヲ不ス、外極メテ明細ニ記述ガ  
アリ、又更ニ信号用、包括的符号（モアリタリ）。  
此ノ信号簿ヲ以テ眞珠湾ニ向ケ航行途上ノ日本軍  
潛水艦又ハ日本軍海軍部隊ニ上述、如キ情報ヲ

NO.17

6257

NO. 18

6257

通報之得タルモノトリ。

三、キニシヨリ喜多總領事、受領せがマニ全  
逐語的=反覆也(干ニシ)暗号、喜多ヨリ正  
シ一九四一年(昭和十六年)十一月三日附、通信ヲ以テ  
東京ニ傳達セタリ。通信文ニ述べル如ヘ、海軍  
社並ビ=カラニ在トハ、キニシ告白ニ係レバ彼自  
アリシ家ナリキ。本通信文(國際檢定部書類  
第6=五五号、下、日本通信文第255号)  
ハ左如シ。

留不化(喜多)統  
東京宛 Honolulu (Kita)

一九四一年(昭和十六年)十一月三日(一九四一年(昭和十六年)  
十一月十一日海軍訛)

(P A 1 K 2)

第二四五号(一部=了完成ス)

八軍司令秘密

一、富士一郎(陸軍參謀本部第三課長宛  
余暗号ヨリ通信方法ヲ次、如ク表スルコトヲ  
希望ス。

(1) 八箇暗号ヲ次、三行配列入

意味

偵察艦及牽制部隊

出擊準備中

暗号

八八戰列艦分隊

1.

數隻航空母艦

出擊準備中

戰列艦分隊

一日ヨリ三日向全部出撃

2.

航空母艦

一日ヨリ三日向數隻本隊

3.

4.

NO. 18

6257

通報之得タルモノ。

三、キニシヨリ喜多總領事、受領せがマニ全ノ  
逐語的ニ反覆せん干ニシ暗号ハ、喜多ニヨリ正  
シテ一九四一年昭和十六年十一月三日附、通信ノ以テ  
東京ニ傳達セタリ。通信文ニ述べルノカハ海軍  
社並ビニカラニ社トハ、キニシ告白ニ係レバ彼台  
アリシ家ナリ。本通信文(國際檢察部書類  
第大ニ四五号、下、日本通信文第ニ四五号)  
ハ左如シ。

留不化(喜多)第 Honolulu (Kita)

一九四一年昭和十六年十一月三日(一九四一年昭和十六年  
十一月十一日海軍訛)

PA 1 K 2

第二四五号(一部ニテ完成ス)

軍事秘窓

一、富士一郎ニ陸軍參謀本部第三課長宛  
余ハ暗号ニヨル通信方法ノ次、如ク表ハスルコトヲ  
希望ス。

(1) 簡易暗号ノ次、三行ニ配列入  
意味

偵察艦及牽制部隊 出撃準備中 暗号

八八戰鬥艦分隊

數隻航空母艦

出撃準備中

戰鬥艦分隊

一日ヨリ二日向全部出撃

航空母艦

一日ヨリ二日向數隻本艦

2.

1.

3.

4.



NO. 20

6257

時 暗 暗  
十九時ヨリ二十時  
二十時ヨリ二十一時  
二十二時ヨリ二十三時  
二十三時ヨリ二十四時  
二十四時ヨリ一時  
(E) ケシタニシ  
(A) 支那絨毯等賣渡シ郵便局(秘書)箱一七六  
申込マレタシハ暗号「若クハ6ラス」  
(B) C.H.C.C.O農場等郵便局(秘書)箱一七六  
申込マレタシハ暗号「若クハ7ラス」  
(C) 美容術師サ木等郵便局(秘書)箱一七六  
申込マレタシハ暗号「若クハ8ラス」  
(D) 若シ上記、暗号ト無線通信ガオアリ Calmヨリ爲  
得サルキハマウイマニ島? Tulu麻養竹、  
地方六哩、ロウクマ Lower Kula 街ハレアカラ  
Telekala 街(緯度 21度40分 世界經度 160度56分  
十九分西方海に向南東マニマニ島、南西見  
得シ)、中向地東於次篝火暗号「毎日貴方EXEX  
暗号」ノ次ノ迄為スベシ

時 暗  
七時ヨリ八時  
八時ヨリ九時  
九時ヨリ十時

暗号  
3若クハ6  
4若クハ7  
5若クハ8

十九時ヨリ二十一時  
二十二時ヨリ二十三時  
二十三時ヨリ二十四時  
二十四時ヨリ一時

876543

時

暗号

## (五) ケージー・エム・ジー K.G.-M.G.

求廣告

(A) 支那絨毯等賣賣渡シ郵便局(私書)箱一四七六二  
申込マレタシハ暗号3若クハ6ラ不ス

(B) C.H.C.C.O農場等郵便局(私書)箱一四七六二  
申込マレタシハ暗号4若クハ7ラ示ス

(C) 美容術師ツネム等郵便局(私書)箱一四七六二  
申込マレタシハ暗号5若シラハ8ラ示ス

(3) 若シ上記、暗号ト無線通信ガ「オア」  
得ガルトキハ「マウイ」 Mani 島 フラ Kula 療養所、  
北方大哩、「ロワーグラ」 Loran Kula 街ト「レアカラ」  
Kaloakala 街(緯度二千度四十分也方經、交百五十六度  
十九分西方海ニ向キ南東マウイ Mani 島、南西ニ見  
得ル)、中間一地矣、於テ次第火暗号ア毎日貴方EXEX  
、暗号ヲ受クル迄為スベシ

時

暗号

七時ヨリ八時  
八時ヨリ九時  
九時ヨリ十時

3若クハ6  
4若クハ7  
5若クハ8

NO. 20

6257

時 時 暗号

十九時ヨリ二十時  
二十時ヨリ二十一時  
二十二時ヨリ二十三時  
二十三時ヨリ二十四時  
二十四時ヨリ一時

(E) ケシエム一 水廣告  
(A) 支那絨毯等賣渡シ郵便局(松書)箱一四七六  
申込マリタシハ暗号シ若クハ六ヲルス

(B) CH.C.O 農場等郵便局(松書)箱一四七六  
申込マリタシハ暗号シ若クハ七ヲルス

(C) 美容術師エム等郵便局(松書)箱一四七六  
申込マリタシハ暗号シ若クハ八ヲルス

(3) 若シ上記、暗号ト無線通信ガオアリ Calmヨリ爲シ  
得サルキハマウイマニ島マリカレナリ  
北方六哩、ロワーラニ Lower Kula 街ハレアカラ  
Taleakala 街アリ  
十九令西方海ニ向ナ南東マリマニ島、南西ニ見  
得シ、中向地東ニ於テ等輪火暗号ノ音貫方取ニ  
暗号ヲ受ク迄為スベシ

時 時 暗号

七時ヨリ八時  
八時ヨリ九時  
九時ヨリ十時  
四三若ク6  
若ク7  
若ク8

Nov. 20

6257

十九時ヨリ二十時  
二十時ヨリ二十一時  
二十二時ヨリ二十三時  
二十三時ヨリ二十四時  
二十四時ヨリ一時

音序

8 7 6 5 4 3

(E) ケーネルタウニ 大G. T. B. 木廣告

(A) 支那絨毛等賣渡シ郵便局(郵書)箱一四七六=

(B) 申込マレタシハ暗号ヲ若クハララス  
C H C O 農場等郵便局(郵書)箱一四七六=

(C) 申込マレタシハ暗号乙若クハララス  
美容術師トホム等郵便局(郵書)箱一四七六=

(D) 申込マレタシハ暗号ト若シハララス

(E) 若シ上記、暗号上無線通信ガオアリ Calm ヨリ爲  
得サルトキハラウト Mani 鳥ト Kuli 麦養竹  
北方六哩、ロウトウト Lower Kula 街トハレアカラ  
Taleakala 街(縁)ト千波四十令西方経度百五十六度  
十九令西方海一向半南東トウト Mani 鳥、南西ニ見  
得ル、中向地東ニ於テ次第火暗号ヲ毎日貴方EXEX  
暗号ヲ受取ル迄スベシ

七時三十分  
八時三十分  
九時三十分

NO. 21

Doc 6257

四五 更=外務大臣、如ニ於テ提出セラル化要求ニ應シ、喜多  
徳領事ハ次、ロキ通信ヲ送ルモノ、本通信其後眞珠  
島キタアシ日本艦隊ニ順次轉電セラシトハ疑ナシ。  
一九四一年/昭和十六年/十二月三日付、本通信(國際檢察  
部書類第六三五九号)G、日本通信文(六三五二号)ハ左

木、化發。  
東京宛 / Honolulu

一九四一年/昭和十六年/十二月九日(一九四一年十二月十四日海  
軍次)

(P A I K 2)

二号

(一) 五日金曜午前、余、通報  
三載艦当地ニ到着日)。六三九三於テ既  
レキシントン/Lexington/五、五重巡同日出港セリ。  
コラハ八日海洋ニ居

左記艦船、五日午後諸内アリ。

驅逐艦  
輕巡

八隻  
三隻  
十六隻

木、ハル/  
Honolulu/級、四艦並、八船渠

二号

NO. 21

Doc 6257

四五、更ニ外務大臣、如ニ於テ提出セラレタル要求ニ應シ、喜多  
總領事ハ次ノ如キ通信ヲ送レハモ、本通信が其ノ後眞珠灣  
ニ近ツキツノアリン日本艦隊ニ順次轉電セラレシコトハ疑ナシ。  
一九四一年、昭和十六年十二月三日付、本通信（國際檢察  
部書類第スニ五カ号、G、日本通信文第ニ五ニ号）ハ左  
如シ。

「木ノルル發」

Monashiki

東京宛

一九四一年、昭和十六年十二月九日（一九四一年十二月十日海  
軍訖）

（P A I K 2）

二九二号

(一) 五日金曜日午前、余、通報セハニ三九三ノニ於テ既述  
三戰艦、當地ニ到着コリ。コレハ八日間海洋ニ居  
リシモノナリ。  
(二) 「レキシントン」/Lexington/並ニ、五重巡洋日出港セリ。  
(三) 左記艦船ハ五日午後港内ニアリ。

戰艦  
輕巡  
駆逐艦  
八隻、  
三隻  
十六隻

ホノルル/Honolulu/級、四艦並ニ、八船渠ニ  
オレリ。

No. 22

Doc 6257

四六、「ホルル」發、東京宛、十二月六日附、通信ハ「通信、球バ年  
ル「奇襲」ニ奥スル直接的情報ヲ提供スルモノニシテ且ウ  
防空網及ビ水雷防禦網ナル重要問題ヲ扱ウリ、本通  
信文（國際檢察部書類為主立、H. 日本通信文第  
二五三号）ハ左ノ如シ。

「ホルル」/ *Hamakaze* / 發

東京 宛

一九四一年/昭和十六年/十二月六日(一九四一年十二月八日)

陸軍訳)

PAIKO

オニミ三號

貴テ一ニ三號、最後、部分ニ奥シ

米國大陸ニ於テ十月ニ陸軍ハ「ノース・キャロライナ」  
/ *North Carolina* / <sup>「デビス」</sup> *Debris* / 兵舎ニテ防空  
網部隊、訓練ヲ開始セリ。彼等ハ四五百、氣球ヲ往  
向シタノミナラズ「ハイ」/ *Hamakaze* / 及ビ「パナマ」/  
Panama/ 防禦ニヨリ氣球ヲ使用セント考慮ヒアルモ  
ト思ハル。「ハイ」/ *Hamakaze* / ニ奥スル限り眞珠湾  
附近、調査が行ハシタルガ、彼等ハ、繫留施設モ為サ  
ズ又ソレラニ配貟スノ部隊、堅定モ、為シオズ。  
更ニ氣球保持、訓練が何等カ、企テラレオルか如キ徵候  
更ニナシ。現在、トヨ、防空網施設、形跡ナシ。更ニ彼等  
が實際、防空網施設ト稱スルモノヲ持テ居ルト考ルト  
困難ナリ。乍然、彼等ハ眞珠湾「ヒカク」/ *Hickory*

No. 22

Doc 6257

四六、「ホルル」發、東京宛、十二月六日附、通信ハ「通信」、球ハ「  
「奇襲」ニ奥スル直接的情報ヲ提供スルモノニシテ且ウ  
防空網及ビ水雷防禦網ナル重要問題ヲ扱エリ。本通  
信文（國際檢察部書類カニシテ、H.日本通信文、オ  
ニ五三号）ハ左、如レ、  
二五三号）ハ左、如レ、

「ホルル」/ *Donald* / 發

東京 宛

一九四一年/昭和十六年/十二月六日(一九四一年十二月八日)

陸軍訳)

PAIKO

貴方一三號、最後、部分ニ奥シ  
オニカ三號

一  
米國方陸二於テ十月ニ陸軍ハ「ハース・キャロライナ」  
/ *North Carolina* / 「デビス・ジョン」/ 兵舎ニテ防空  
網部隊、訓練ヲ開始セリ。彼等ハ四百、氣球ヲ往  
向シタノミテアズ「ハワ」/ *Haw* / *Haw* / 及ビ「ペナ」/  
「Panama」/ 防禦ニコラ氣球ヲ使用セント考慮シテ、  
ト思ハル。ハワイ / *Hawaii* / 奥迄限リ眞球焉  
附近、調査が行ハタルガ、彼等ハ、堅留施設モ為サ  
ズ又リラニ、配貟スキ部隊、堅定モ、当シオズ。  
更ニ氣球保持、訓練が何等カ、企テラオルが如キ徵候  
更ニナシ。現在、トヨ、防空網施設、形跡ナシ。更ニ彼等  
が實際、防空網施設ト稱スルモノヲ持ナ居ルト考フルト  
困難アリ。乍然、彼等ハ眞珠灣「ヒック」/ *Hickam*/

No. 22

Doc 6257

四六、木、山登、東京宛 十二月六日付、通信ハ「通信」、本ハ「平  
ル奇襲」、奥スル直隣的情報ヲ提供スルモノ、ニテ且  
防空網及水雷防禦網、其重要問題、扱与リ。本通  
信文、國際檢査部書類为三三二、H、日本通信文書  
五三号)ハ左、如レ。

木、山 / *Donalde* / 登

東京 宛  
一九四一年/昭和十六年/十二月六日(一九四一年十二月八日  
陸軍派)

PAIKU

十二月三號

貴方一三號、最後、部分ニ奥シ

一、米國大陸二三月ニ陸軍十八人、ヤロライナ  
ノースカロライナ / デラス / Davis / 大倉ニテ行  
網部隊、訓練ヲ開始セリ。彼等ハ四日、氣球ヲ往  
向シタ、ナスハワカ / Hawaii / 及ハハマ /  
Panama / 行標ニヨラ氣球ヲ使用セテ考慮セシム、  
ト思ル。ハワイ / Hawaii / 南ハマハマ / 真珠湾  
附近、調査が行ハシムが、彼等ハ、警備施設モ為  
サズ又シラニ配貢スベキ部隊、既定モ、當レオズ。  
更ニ氣球保持、訓練が何等ア、企テヨリオルが如テ微候  
更ニナシ。現在、(言)防空網施設、形跡ナシ。更ニ彼等  
が實際、防空網施設ト解スルモナリ、持テ居化ト考スルト  
困難ア。乍然、彼等ハ真珠湾ハカム / Hickam /

Doc 6257

「アート」

「ニワ」

「三三三」

附近、空港、

水上及陸上滑走路、上空ヲ制セバラヌタメ実際ニ準備ラシタリト雖モ、眞珠湾、氣球防禦ニ限界アリ。余ハコレラ場所ニ対し、奇襲襲スル為ニ利用ノ機会が確ニ相当残セテオルモノト考フルモノナリ。

二、余見解ニテハ、コレ等戦艦八隻、雷網持矣。  
詳細不明、尙余調査、結果ヲ報吉セシ。

四七、攻撃、前夜、日本總領事、眞珠湾ニ碇泊、又ハ、繫留中、船舶二箇所、次、通信ヲ東京ニ發セリ。ソノ通信ハ、國際検察部、書類號六ニ五五号、工日本通信オニ五四号ニシテ改、如シ。

「木ノル」發

東京向

一九四一年、昭和十六年、十二月六日（一九四一年十二月八日）  
軍ニ依リ、翻訳サル

P A - K 2

オニ立四號

1. 五日、夕刻、入港軍艦、中二八一、及び潜水母艦一隻アリタリ。次、船舶八、六日、碇泊中ナルヲ認メラタリ。

戦艦九隻、軽巡洋艦三隻、潜水母艦三隻  
駆逐艦十七隻、更ニ加フルニ、軽巡洋艦四隻、  
駆逐艦二隻、駆逐艦留ナリ。（重巡洋艦及航空母艦ハスベア、出器セリ）

2. 艦隊航空部隊三隻、空ヲ、偵察ヘ行ハリアル模様ナリ。

6257

no. 24

四八

日本、謀報及び偵察ニ關ニ、ニ、捏合せし書類ハ  
オルルニ於ケル領事情報、南モモノシ數ニ限定セ  
リ、日本海軍及外務省が此ノ領事情報ヲ真珠灣攻  
撃ノ補助トテ計画シ実施セル行爲ハ、侵略戦争準備  
為メ他行為ト同種ナコトヲ不ヤナリ

第 四 項

(三三頁)

日本側ヨリ、合衆ニ對ニ日本合衆軍ト戰闘ヲ開始ス  
ルト云フ明白ナル、而シテ道理甚キ尤敵警告ヲ前以テ、通告  
セスニテ、一九四一年、昭和十六年、十二月七日、ハイ真珠灣  
ニ、合衆國海軍兵員及シ艦船ニ對ニテナスベキ、日本  
空母機動部隊ニ備後密攻撃ノ計画ト準備

五〇、航空母艦建造及シ委任統治領ニ於ケル海軍根據地  
及シ要塞建設ニ關シ日本海軍、為シタル計画及シ  
準備ハ既ニ提呈セリ。海軍、奇襲準備トシテ、領  
事偵察行動ニ關スル、日本海軍、計画及シ準備ニ  
モ亦考慮ヲ拂ヘリ。航空母艦及シ要塞化ガレタル島嶼、基  
地並ニ探知報告ヲ用ヒタル真珠灣攻撃ニ關スル以上、  
計画、完成セルモノ次ニ示ス。

五一、本攻撃手ハ(1)ソノ目的、(2)計画(3)遂行、諸矣ヨリ  
考察ス。

五二、攻撃手、分析ニ用ヒラシタル書類ハ主トシテ

(1) 機密聯合艦隊命令作成書(國際檢察部書  
類第十七号)

(2) 联合軍最高司令官、聯合軍飛行、通信部  
調查報告三号、一九四五年、昭和十六年、八月一日附

110. 25

五四

聯合艦隊參謀長伊藤大尉次通り言明セリ  
即ち真珠灣、艦隊八宗最初一擊ヨリ完全に粉  
碎セラベシ。若シ亞利加が準備不充分向ニ  
對手ヨリ、又テ重慶攻撃等及じて各取仕事ヨリ  
戦頭初二吾々、戰勝の西華權ヲ確保スラバ  
ク、作戦規模ヲ有利支配ニ得ベシ(國際檢  
察部書類中一六二七号P.P.七、八頁)  
(國際檢察部書類中一七号)、中ニ日本全  
作戦、一般目的が次、如ク述ベラシアリ。

110. 6. 25. 1

五三

日本、戰爭決意一題人心書類  
(國際檢察部書類中一六二八号)及  
(真珠灣作戰一題凡同所所以後ATIS上呼デ  
ヨリ得化調查報告中三二号(國際檢察部書類  
中一六二七号)  
述べラシタリ。  
(1) 南洋作戰(此島ヲ含ム)ニ對入ル行動、自由ヲ確保  
之且フ時間的餘裕ヲ得心爲合衆國太平洋艦隊  
ヲ無力化シ  
(2) 併セテ我委任統治諸島、防衛ヲ期シトス。

(國際檢察部書類  
中一六二八号 八六頁)

0

日本、戰爭決意一題人心書類  
(國際檢察部書類中一六二八号)及  
(真珠灣作戰一題凡同所所以後ATIS上呼デ  
ヨリ得化調查報告中三二号(國際檢察部書類  
中一六二七号)  
述べラシタリ。  
(3) (國際檢察部書類中一六二八号)及  
(真珠灣作戰一題凡同所所以後ATIS上呼デ  
ヨリ得化調查報告中三二号(國際檢察部書類  
中一六二七号)  
ヨリ得化調查報告中三二号(國際檢察部書類  
中一六二七号)

No. 25

五四

聯合艦隊參謀長伊藤大尉次、通じ言明セ、即今具珠灣、艦隊の開戦最初一擊ヨリ完全に粉碎セラバニ。若シ亞米利加が準備不充分、向ニ對手ニヨリ本ア重西支那攻撃等及び田各取入事ニヨリ開戦頭初二吾々、戰闘的朝権ヲ確保スルヲ期修、作戦、規模ヨリ有利支配ニ得ベシ(國際檢察部書類第1627号P.P.7-8)。機密聯合艦隊命令作成第1号/セ/八頁(國際檢察部書類第17号)、中ニ日本全作戦、一般目的次、如ア述べラシア)。

1908. 6257

五三

7 日本、戰爭決意ト題入書類  
(1) (國際檢察部書類第1628号) 及  
莫珠灣作戰ト題不同出所以後 A T S (三四頁)  
ヨリ得タル調査報告第32号 (國際檢察部書類  
第167号)  
1 莫珠灣攻撃、目的、永野海軍大將、依次、如  
述ベラシタリ。  
(1) 有洋作戰(此島ヲ含ム)ニ對入行動、自由ヲ確  
立且つ鴻門的餘裕ヲ得心為、合衆國太平洋艦隊  
ヲ無力化シ  
(2) 併セテ我委任統治諸島、防衛ヲ期セントス。

(國) 檢察部 類書目  
第一二二、二二六頁)

日本，戰爭決意」上題文化書類

(3) (國際検察部書類第1628号) 及  
（眞珠湾作戦上是乞同告訴以テハトスル呼ブ）  
ヨリ得タル調査報告第32号 (國際検察部書類  
第1627号)

（二）南洋作戰（此島ヲ含ム）ニ對し行劫、自由ヲ確  
立、且つ勝利的餘裕ヲ得心爲合衆國太平洋艦隊  
ヲ無力化シ、

(2) 併セテ我委任統治諸島、防衛ヲ期セントス。

6

察部書類中六二七号 P.P. 七  
機密聯合艦隊命令合作方号二七八  
國禁令察部復

(國防検察部書類ホ七号)、中二日本、全作戦、一般目的が次、如?述べテシアリ。

No. 25

五四

聯合艦隊參謀長伊藤大尉次通り言明セ  
即ち真珠灣、艦隊ノ開戦最初、一擊言、完全ニ粉  
砕セラバベシ。若シ亞利加が準備不充分向ニ  
對手ヨリ不テ重慶ヲ攻撃等反じて各取仕事ヨリ  
開戦頭初二吾々、軍事的自尊権ヲ確保スナラバ開  
戦、作戦、規模ヲ有利支配ニ得ベシ（國際檢  
察部書類中一六二七号 P. 七、八頁）  
機密聯合艦隊命令作中一六二七号 P. 七、八頁  
（國際檢察部書類中一六二七号）中ニ日本全  
作戦、一般目的が次、如ク述ベラシアリ。

No. 6251

五三

日本、戰爭決意、題入書類  
(3) (國際檢察部書類中一六二八号) 及  
真珠灣作戦、題入同上所以後 A T S 呼ブ  
ヨリ得タ調査報告中三二号（國際檢察部書類  
中一六二七号）  
述べラシタリ。  
(1) 本洋作戦（此島ヲ含ム）二村入行動、自由ヲ確保  
シ且フ勝利的餘裕ヲ得心為合衆國太平洋艦隊  
ヲ無力化シ  
(2) 併セテ我委任統治諸島、防衛ヲ期シトス。

（國際檢察部書類  
中一六二八号 八六頁）

No. 25.

五四.

聯合艦隊參謀長伊藤大將次通り言明セ  
即ち真珠灣、艦隊八月戰最初、一擊ヨリ完全に粉  
砕セラベシ。若シ亞利加が準備不充分向ニ  
對テ、杰テ重慶ヲ攻撃反し而各取入事ヨリ  
戦頭初二吾々、財源的自衛権ヲ確保スナラバ爾  
後、作戰、規模ヲ有利支配ニ得ベシ(國際檢  
察部書類第1627号P. 1/8)  
(國際檢察部書類第1627号)、中ニ日本全  
作戰、一般目的が次、如ク述ベラシアリ。

No. 6251

五三.

(3) 7 日本、戰爭決意ト題人心書類  
(國際檢察部書類第1628号)及  
(真珠灣作戰ト題ノ同文所以後ATISト呼デ  
ヨリ得タル調査報告第3号(國際檢察部書類  
第1627号)  
述一真珠灣攻撃、目的、永野海軍大將、依次、如  
(1) 在洋作戰此島ヲ含ムニ對心行動、自由ヲ確保  
之且ア勝利的餘裕ヲ得心為合衆國太平洋艦隊  
ヲ無力化シ  
(2) 併セテ我委任統治諸島、防衛ヲ期シトス。

(國際檢察部書類  
第1628号 8/8頁)

7 日本、戰爭決意ト題人心書類

(國際檢察部書類第1628号)及

(三頁)

(真珠灣作戰ト題ノ同文所以後ATISト呼デ  
ヨリ得タル調査報告第3号(國際檢察部書類  
第1627号)

0

10.26

Dec 6257

- 一 東洋二討当へ米國艦隊ヲ擊破し且東洋二討入米國作戰線及ビ補給線ヲ底断ス。
- 二 西洋二討宣、英領馬來方面ヲ攻略し英國、東洋二討ル作戰線、補給線及ビハニル小ニ底断ス
- 三 在東洋敵兵ヲ擊滅し、其作戰據点奪フ、  
其二、資源地帶ヲ獲得入。
- 四 要地ヲ攻略開發、防備ヲ強化シ、持久作戰態勢ヲ確保入。
- 五 敵兵ヲ擊滅、擊滅入。
- 六 戰果ヲ擴大し、敵軍意ヲ奪入
- 七 永野(之)處ニ依リ、眞珠湾攻撃、計画(ノ)一  
九三一年(昭和十六年)一月初旬、山本(之)相見セリ。  
一九四一年(昭和十六年)九月ヨリ作戰參謀將校三  
立(立)案セタルモノ)。國際檢察部書類(三十六  
号、三六頁)前記(全計畫)承知し居ノ久日本海軍  
軍人、中(之)永野(及)山本(之)。計画、一部(三十六頁)  
「(之)者三、海軍大臣、島田海軍大將及(之)海軍久  
善(善)局長(即海軍大將?)」。同(三六頁)該計画、仕上  
備(備)一九四一年(昭和十六年)九月二日ヨリ十三日(至)ル  
ア 東洋二討(於)戰爭圖上作戰演習ヲ催セリ。約  
四十人、重要九日本海軍將校(足)參加シ永野(之)  
最上位(將校トシ)審判ヲ(勤メタ)。
- 八 (同四、九、六頁)

Doc 6257

No. 27

五六 該計画、準備ニ参画セル日本海軍將校ニ依レバ解決ス  
ベキ問題、如何ニシテ最も有効ニ布畦方面、合衆國太平  
洋艦隊ヲ攻撃スベキアリタリ。

彼等、次、如、述、て、居、テ、リ。即、ナ、布、哇、方、面、ニ、於、ケ、ル、合、  
謀、國、太、平、洋、艦、隊、主、力、ヲ、最、モ、効、果、的、ニ、無、力、化、セ、ル、  
ニ、六、破、泊、艦、ヲ、雷、擊、ス、ル、ニ、ア、リ、ト、決、定、セ、ラ、レ、タ、リ。此、故、  
ニ、ツ、障、碍、ヲ、考、慮、セ、リ。

(d) (4) 真珠灣狹隘ニテ、浅海面ナルヲ実  
 (b) 真珠灣ニハ多分魚雷防禦網ヲ裝備シアルベキコト  
 (a) 項ニ付ニテハ魚雷ニ安定器ヲ附シ、レヲ超低高  
 度発射スルコトヲ計画セリ。  
 (d) (8) 項ニ付ニテハ奏放、算少キヲ以テ爆擊手ヲ併  
 用セリ。

五七、次、問題八、燃料補給ト奇襲遂行トテアリ。是等、  
莫三村ト同將校等八次、如、述べ。同六十八頁  
即テ燃料補給、能力ト奇襲ト、何モ本作戰、  
鍵ニテ何レ缺クト雖モ作戰遂行ハ不可能  
ナリト

洋上、燃料補給ハシ、遂行ニ独特、訓練ヲ要スモノ、ニアシタ、奇襲ヲ確実ニスル為、船舶、往来、少々ノ北方大洋航路ヲ取ラシナケレバナラズシ、並衛牽制偵察駆逐艦が先航サセラレバナラズ、又洋上ニ於イテハ完全ナラジオ、停止が実施サレバナラズ、他方瀬戸内海及び九州地域ニ於テ欺瞞的ラジオ活動が行ハナケレバナラナカシ、(回六八夏南雲提督麾下、而シテ六隻、航空母艦ヨリ)

Doc 62571

No. 21

五六 該計畫、準備二參画セル日本海軍將校ニ依レバ解次  
ベキ問題、如何ニシテ最も有効ニ布陸方面、合衆國太平  
洋艦隊ヲ攻撃スベキアリタリ。

彼等次、如ク述ベ居タリ、即ナ布陸方面ニ於ケル合  
衆國太平洋艦隊、主力ヲ最も効果的ニ無効化セシム  
ニハ碇泊艦ヲ雷撃スルニアリト決定セラレタリ。此、故  
次、ニシテ、障礙ヲ考慮セリ。

- (a) (b) (c) (d) 真珠灣ノ狹隘ニテ、或海面ナルヲ実
- (c) (d) 真珠灣ニハ多分魚雷防禦網ヲ裝備シアルベキコト
- (a) 項ニ対ニテハ魚雷ニ安定器ヲ附シレバ超低高  
度発射スルコトヲ計画セリ。
- (d) 項ニ対ニテハ奏放、算少ナキヲ以テ爆撃ヲ併  
用セリ。

五七 次、問題ハ燃料補給ト奇襲遂行トアリ。是等、  
莫ニ付キ同將校等次、如ク述ベタ。同六十八頁  
即ナ燃料補給、能力ト奇襲トハ何モノ本作戰、  
體ニテ何レ缺クト雖モ作戰遂行ハ不可能  
ナリト

洋上、燃料補給ハ、遂行ニ独特、訓練ヲ要ス  
モ、テアシ。奇襲ヲ確實ニスル為、船舶、往来、少々  
ノ北方大洋航路ヲ取レナケレバナラス。前衛軍  
制偵察駆逐艦が先航セラレヌバナラズ、又洋上  
ニ於イテハ完全ナラジオ、停止ニ實施サレバナラ  
ズ。他方瀬戸内海及ビ九州地域ニ於テ欺瞞的  
ニラジオ活動を行ハナケレバナラナカリ。同六十九頁  
五八 南雲提督麾下、而ニテ六隻、航空母艦ヨリ

110. 28

Doc 6257

成) 二隻、駆逐艦二隻、重巡洋艦一隻、軽巡洋艦一隻、駆逐艦三隻、潛水艦及び八隻、拖運船二隻、依り掩護せし。進攻機動部隊編成ヲ、計画ハ詳細規定シテアツ。同八十三頁) 進攻部隊ハ普通、潛水艦及び特別訓練ヲ受ケ、將校が未組ニテ豆潛水艇) 兩者、潛水艦ヲ含ニテヰ。同六十八頁、國際檢察部文書オ十六百二十七年、十七二十三頁) 空母積載攻撃機ハ三百六十機テアツ。即ち急降下爆擊機百三十五機、水平爆擊機百四機、雷擊機四十機、及ハ八十一機、地上銳擊機テアツ。攻撃目標、主トニテ航空母艦、空軍基地及地上ニアル航空機ニ定メラレ居テ、然シ遂行二隊、航空母艦が居ナリテアツ、戦艦が特別ナル注意ヲ受ケテアツ。國際檢察部文書オ十六百二十八年、八十四頁)

三九) 計画ハ各所ニ於イテヨリ劣勢十艦隊、活動ヲモ規定シテアツ。 (國際檢察部文書オ十七号二二〇四一六頁)

六) 真珠湾攻撃=対スル本計画ニ於イテモ又海軍記録中、如何ナヒ他、日本文書中ニモ松ハ立案者が攻撃前、警告告ヲ要求スルオ三回海牙條約、適用乃至不適用(付イテ何等カ、考慮ヲ拂シトトイフ何等、證跡ヲ認メナリ)テアル。

六) 計画、遂行  
一九四一年/昭和十六年/十一月五日 永野海軍大將、山本提督、計画命令ヲ發セリ (國際檢察部文書)

Doc 6257

No. 28

成り、二隻、戰艦、二隻、重巡洋艦、一隻、輕巡洋艦、  
一隻、駆逐艦、三隻、潛水艦、及ビ八隻、並運送  
船ニ依リ掩護サレタ、選抜機動部隊編成ラソ、計  
画ハ詳細ニ規定シタノデアツタ。(同八十三頁) 追加部  
隊ハ普通、潛水艦及ビ特別訓練ヲ受ケタ將校か  
末組ニダ豆潛水艇、兩者、潛水艦ヲ含ニテヰク。  
(同、七八八頁、國際檢察部文書オ十六百二十七年、  
十七一三頁) 空母積載攻擊機八三百六十機、テア  
ツ、即キ急降下爆擊機百三十五機、水平爆擊  
機百四機、雷擊機四十機、及シ八十一機、地上銃擊機  
テアツ、攻擊目標ハ主トニテ航空母艦、空軍基地及  
地上ニアル航空機ニ定メラレテ居ツタ、然シ遂行ニ際シ  
航空母艦が居ナカツタノ、テ戰艦が特別ナル注意ヲ受  
ケタノ、テアツ。(國際檢察部文書オ十六百二十八年)  
(同四頁)

五九、ソノ計画ハ又各所ニ於イテ、ヨリ劣勢十艦隊、活動  
ヲモ規定シタノ、テアツ。(國際檢察部文書オ十七号二  
一〇四一六頁)

六〇、真珠灣攻擊ニ対スル本計画ニ於イテモ又海軍記録中  
、如何ナル他、日本文書中ニモ松ハ立案者が攻撃手前、  
警告ヲ要求スルオ三回海牙條約、適用乃至不適用  
用ニ付イテ何等カ、考慮ヲ拂ツタトイフ件等、證  
跡ヲ認メナイ、テアツ。

六、計画、遂行

一九四一年、昭和十六年、十一月五日、永野海軍大將ハ山  
本提督ニ對シ命令ヲ發セリ(國際檢察部文書)

十六百二十年七月十五日)」(山本八(國際検察部文書十六年七月十五日)、聯合艦隊、命令第一号ヲ發シ、該計畫ヲ実行セリ)。

計画は於ケル日より而して後日(同月三日)、決定スル基メ、規定は從十二月八日より日ニ決定セ、命令サニ号(同月二十五日)、十一月六日、山本八(發セ)。

六二、同日一九四一年(昭和十六年)十一月六日、山本八(旗艦長内ヨリ機動部隊)は対ニ千島擇捉島、ヒトカツア軍冠湾ニ集結、十一月二十二日迄、物資、補給ヲナスベキ旨、命令ヲ發セ。(國際検察部文書十六百二十年七月十七日)

六三、十一月二十五日、山本八(機動部隊)は十一月二十六日行動を起シ、而して十二月三日トキメラレタ夜間待機位置ニ其、行動ヲ秘匿シ、准備セヨと命令セリ。(國際検察部文書十六百二十年七月十八日)

六四、一九四一年(昭和十六年)十一月二十六日午前六時、機動部隊ハ真珠湾ヘ、三十哩以上、航海、途ニ就ケリ。(同月二十八日)

六五、十二月二日、航海、途次機動部隊ハ、(真珠湾時間十二月七日)十九時ベキ旨、聯合艦隊命令ヲ接受セリ。(同月二十八日)

六六、十二月二日、山本提督ハ、旗艦大和ヨリ攻撃開始、命令ヲ發セ。

六七、十二月六日ヨリ七日、夜間(真珠湾時間)機動部隊ハ全速力(三十六節)ニテ南方へ突入セリ。

Doc 6254

六

十二月七日早晚(真珠湾時間)オアフ島、真北二百三十  
哩ニ至リ三時、午前一時三十分、航空母艦ハオ一次攻撃  
隊、航空機ヲ発進セシメタリ。オアフ島、北方二百哩  
時、午前二時四十五分オニ次攻撃隊、ノ航空機ヲ発進  
セシメタリ。(國際檢察部文書オ千六百二十八号)七十一頁  
航空機ハ航空母艦、南方ニ集合シ攻撃、タメ進発  
セリ。雷撃機及ビ急降下爆撃機ハ午前七時五十五  
分ヨリ八時二十五分マテ攻撃セリ。水平爆撃機ハ八時  
四十分ヨリ九時十五分マテ續キタル攻撃ニ於ケル主要  
攻撃機ナリ。急降下爆撃機ハ九時十五分ヨリ九時  
四十五分マテ攻撃セリ。時ニ襲撃ハ終了セリ

六九、機動部隊ハ航空機ヲ進発セシメタル後全速力ヲ以  
テ北西ニ向ケ後退セリ。ソコニテ午前十時半ヨリ  
午後一時半ヨリ、間ニ約廿八機ヲ除ク以外、飛行  
機全部母艦ニ帰還セタリ。依テ本機動部隊ハ  
吳向ヶ進發シ十二月廿三日同地ニ到着セリ

七〇、本攻撃部隊ハ米海軍將校並ニ兵員一九九九名ヲ  
殺害セリ。其際オ一戰艦戰隊司令官タルアイザック・  
キニベル、キッド少將戦死セリ。恐ラク彼ハ最後マテ  
指揮ヲ取り居タル旗艦アリゾナ、爆発ニ際シ戦死セん  
モノト推定セラル。アリゾナニ於ケル全損害ハ將校四七  
兵員一〇五六(一九四六年、昭和三十一年、七月十五日附海  
軍省人手局長証明)、合衆國海兵隊員、損  
害死者一〇九名(一九四六年、昭和二十一年、五月七日海  
兵隊人手部長証明)、合衆國陸軍損失死者  
三四名(一九四六年、昭和二十一年、七月八日附陸軍省

No. 30

No. 31

七四

予ハ合衆国政府、記録中ニ日本政府ハ合衆国ニ対シ  
戦争行為ヲ開始セントスルコトニ就キテ深メ明瞭ニ理  
由アル警告ヲ與ヘタルガ如キ文書又ハ通信、アリニ  
コドヲ今迄發見シ得ズ。

②本外務省ヨリ日本ト合衆國ト、向ニ戦争狀態

七三、眞珠湾攻撃ヲ成功セシム為ニハ偏ニ神密、嚴  
守ト完全ナル奇襲ニ依ラザル可カラサルコトヲ命  
令其、他ニ於テ保送シ強力ニ警戒シ遂ニ永  
野、山本及ビ其、協力者、眞珠湾攻撃ニ於ケル  
完全ナル神密、嚴守ト完全ナル奇襲、敢行ニ成  
功エタリ。

Doc 6257

七一

飛行機損失合衆五八八、日本二九  
合衆五、受ケタル大破並ニ損失戦艦八、輕巡  
洋艦三、駆逐艦三、其、他、船舶四、二二  
日本側損失潜水艦五

此、如、不釣合ナル損害ヲ與ヘ得タルハ如何  
永野、山本及ビ日本海軍及政府、協力者ガ  
一九三一年/昭和六年/ヨリ一九四一年/昭和十六年/  
ニ至ル間ヨク其神密ヲ守リ海軍、奇襲計画ト  
準備トヲ為シ遂ニルコトニ成功シ一九四一年/昭和十六  
年/十二月六日ヲ以テ其、見テナル計画ト準備  
「絶頂」到達セシタルコトヲ物語ル

七二

損害調査局支那証明本攻撃ニ依ル一般市民、  
死者五四名(一九四六年昭和二十一年六月廿日附布哇太寧  
内戰爭記錄局中部太平洋陸軍民情調查隊  
特別代理人報告)

No. 31

令其他二於平保運之強力二故言信之遂二永  
野山本及二其協力者二此其珠灣攻轉二於竹  
完全十九秘密，嚴守上完全十九奇襲，敢行二成  
功之。」

予ハ合衆ニ政府、記録中ニ日本政府ハ合衆ニ对于戦争行為ヲ開始セントスルコトニ就キテ豫メ明瞭ニ理由アル警告ヲ與ヘタルガ如キ文書又ハ通信、アリニコドヲ今迄発見シ得ズ。

日本外務省ヨリ日本上合衆國上向ニ戰爭狀態

Dec 6 257

۷۱۱

此如不釣合ナル損害ヲ與ヘ得タルハ如何  
永野、山本及日本海軍及政府、協力者が  
一九三一年/昭和六年/ヨリ一九四一年/昭和十六年/  
二至八月ヨク其秘密ヲ守リ海軍、奇襲討伐ト  
準備トヲ為シ遂ノルコトニ成功シ一九四一年/昭和十六年/  
十二月六日ヲ以テ其、見之ナル計画ト準備  
絶頂ニ到達セシメタルコトヲ物語ル

۴۱

損害調查局支那證明 本攻擊二派此一般市民，  
死者五四名（一九四六年昭和二十一年六月七日附布哇太學  
內戰爭記錄局中部太平洋陸軍民情調查隊  
特別代理人報告）

飛行機損失合衆三一八、日本二九、  
合衆三、受傷大破五、貨船一、戰艦八、輕巡  
洋艦三、驅逐艦三、其他、船舶四、二二三  
日本側損失潛水艦五

此如不釣合ナル損害ヲ與ヘ得タルハ如何  
永野、山本及日本海軍及政府、協力者が  
一九三一年/昭和六年/ヨリ一九四一年/昭和十六年/  
二至八月ヨク其秘密ヲ守リ海軍、奇襲討伐ト  
準備トヲ為シ遂ノルコトニ成功シ一九四一年/昭和十六年/  
十二月六日ヲ以テ其、見ノナル計画ト準備  
絶頂ニ到達セシメタルコトヲ物語ル

10.3.2

Doc 6257

発生セリ ト、通告が一九四一年/昭和十六年/十二月十日  
午前二時三十五分、務省ニ到着セリ  
即ち日本艦載機カラ、最初、魚雷及爆弾が真珠  
湾ヲ見舞、ヨリ正二三時間四十分後、コトナリ